

レジェンド・オブ・メキシコ

2003(平成15)年12月18日鑑賞(ソニー・ピクチャーズ試写室)

★★★★



監督・脚本＝ロバート・ロドリゲス／出演＝アントニオ・バンデラス／サルマ・ハエック／ジョニー・デップ／ミッキー・ローク／エヴァ・メンデス／ダニー・トレホ／エンリケ・イグレシアス／マルコ・レオナルディ／チーチ・マリン／ルーベン・ブラデス／ウィレム・デフォー (ソニー・ピクチャーズエンタテインメント配給／2003年アメリカ映画／101分)

……クーデターに揺れるメキシコが舞台。主人公 A は妻子を殺された恨みから、主人公 B はお金絡みで、それぞれクーデターを狙う将軍と対決する。その他登場人物は多数。そして全編を通じて派手なガン・アクションの連続。こういうのが好きな人は大満足だろうが……。

複雑なストーリーと人間関係

この映画の舞台はメキシコ。クーデターによって大統領を殺害し、権力を握ろうとしているのはマルケス将軍。このマルケス将軍に資金提供をして大儲けを企んでいるのは、ワルの麻薬王バリーリョ (ウィレム・デフォー)。他方、マルケス将軍に妻子を殺された恨みをもつ主人公がエル・マリアッチ (アントニオ・バンデラス)。またちょっとハグレもののCIA捜査官のサンズ (ジョニー・デップ) は、クーデター成功の後、マルケス将軍を殺して資金を奪おうと考えていた。

その他、複雑な人間関係が絡んでいるが、映画を観ていても顔と名前が一致しないうえ、それぞれの立場や役割が十分頭に入っていないので、残念ながらストーリーがなかなかわからない……。

派手な撃ち合いのオンパレード

マルケス将軍のクーデターをめぐる、2人の主人公を中心とした登場人物たちが、次々と対決、そして次々と派手に殺されていく。主人公のマリアッチに扮するアントニオ・バンデラスは、「口数は少なく、身のこなしは闘牛士やフラメ

ンコダンサーのよう。銃を撃つのも、まるでギターを弾いているみたいだ」という、アクションが売りモノの俳優だから、各種の銃の取扱いは確かにすごい。

パンフレットの中では、「銃器&映画ライター」の石井健夫氏が「情熱の激辛ガンファイトを堪能セヨ！」と題して詳しく解説している。しかし特別のガンマニアでなければ、こんな詳しい解説を読んでもサッパリわからないし、映画を観ていても、派手な撃ち合いだなあという印象だけ……。それにしても、最後に生き残ったのはマリアッチだけだから、一体何人が死んだのかな……？

マカロニ・ウェスタンを彷彿

今年のハリウッドの話題作『キル・ビル』の監督はクエンティン・タランティーノ。そしてパンフレットによると、タランティーノ監督は、この映画の監督であるロバート・ロドリゲスの友人。

そのタランティーノ監督が「これは君の‘DOLLARS’ 3部作だ」と話しかけたとのこと。‘DOLLARS’ 3部作とは、かつて一世を風靡したセルジオ・レオーネ監督のウエスタン3部作『荒野の用心棒』『夕陽のガンマン』『続・夕陽のガンマン/地獄の決闘』のこと。まさにこの映画での派手な撃ち合いは、マカロニ・ウェスタンを彷彿させるものだが……。

女優2人はほんのチョイ役だけ

マリアッチとマルケス将軍との対立の芽をつくったのは、美女カロリーナ（サルマ・ハエック）。近時公開され話題を集めた『フリーダ』で主演の他、製作もした女優で、『フリーダ』では主演女優賞にもノミネートされた。

しかしこの映画では、ほんのチョイ役で全く存在感がなく、「看板に偽りあり！」と言わざるをえない。

またもう1人の美女、エヴァ・メンデスも同様にチョイ役だから、ストーリー上に美しい女優の華が見えないのは非常に残念……。

ギター演奏と音楽はさすが……

この映画の音楽は、ロバート・ロドリゲス監督自身が作曲したとのこと。主人

公のマリアッチは常にギターをもって登場し、時にはこれが武器に早変わりするという凝りよう。マリアッチの仲間の2人も同様にギターを抱えている。

昔の小林旭主演の『南国土佐を後にして』(59年)や『ギターを持った渡り鳥』(59年)など、合計9作もつくられた日活映画の「渡り鳥シリーズ」は、ギターを抱えて現れた主人公が派手なアクションを展開するもので、「無国籍アクション」と呼ばれて、人気を博したが、何となくこれとも共通点がある……。ちょっと古すぎるか……？

趣味の問題、選択の問題

ロバート・ロドリゲス監督は、1作目の『エル・マリアッチ』ではじめて注目され、3作目の『デスペラード』でメジャーとなったが、「デスペラードがアクション映画ファンの中で、カルト的存在になっている。続編を作らなければならないね」と要請されたため、この作品が完成したらしい。

当然、このようなガンアクションの根強いファンはたくさんいるのだろうが、私はどうも……？

2003(平成15)年12月18日記

ミニコラム

どちらが早撃ち？

1964年に突如登場した『荒野の用心棒』は衝撃的で、ある意味カルチャー・ショックだった。それまでは、拳銃を持った西部劇の主人公はカッコいいヒーローかそれとも銀行強盗の悪役のどちらかに相場が決まっていたが、クリント・イーストウッド演じるこの映画の主人公はチト違うパーソナリティ……？

ところが、メキシコを舞台としたこ

の『レジェンド・オブ・メキシコ』の主役であるアントニオ・バンデラスはあくまでカッコ良さを追求するアメリカ西部劇ヒーローのパターン。

そんなバンデラスとイーストウッドが拳銃で対決すれば、果たしてどちらが早いのだろうか？ 「時空を超えた早撃ちガンマン対決ベスト3」というのも、バラエティのテーマとしては結構面白いのでは……？